

## JR福知山線列車脱線事故を問う4・24宣伝行動

# 安全最優先に向け、運動を進めよう

## 安心・安全に利用できるJRに

地本は、全国統一宣伝行動として取り組んでいる「4・25安全確立行動日」と結合した宣伝行動を展開し、4月24日に「JR福知山線列車脱線事故を問う宣伝行動」を岡山駅さへんすて前・倉敷駅前でチラシ配布・宣伝行動を行ない、参加人数は20名でした。

2005年4月25日に発生した、JR福知山線列車脱線事故から17年目を向かえた。いまJR各社では、



駅の無人化やワンマン運転の拡大、列車の大幅な減便等によって安全・サービス

が低下している。岡山支社においても、3月の「ダイヤ改正」において6線区で44本もの減便が行われ、朝夕の通勤通学時間帯までもが減便・解結となり利便性が大幅に悪化している。

地本は4月24日、チラシ配布・宣伝行動を実施した。岡山駅さへんすて前で、天野地本委員長・青山地本書記長・林第一支部委員長、倉敷駅前では、三宅地本副委

員長・青山地本書記長・藤江第三支部書記長が、市民・通行者に対して訴えた。天野地本委員長の訴えでは、「2005年4月25日に発生した、この事故によって107名の尊い命が奪われ、さらに562名に及ぶ負傷者が発生する」という、これまでの鉄道事故の歴史から見ても未曾有の大惨事となりました。この事故の主な原因は、輸送の安全より利益追求が優先されたことや、また、その競争に打ち勝つために作り上げられたJR西日本の上位下達という企業体質が大きく影響していたと指摘されました。JR西日本は、上意下達の企業風土や安全を最優先することをはじめ、様々な

安全計画を策定してきました。しかし、2017年12月に発生し、新幹線開業初となる重大インシデントとして認定された『のぞみ34号』の台車亀裂事故を受け、2018年からは『JR西日本グループ鉄道安全考動計画2022』を策定した。

しかし、こうした安全を確保していく施策を次々に展開しているにも拘わらず、制定初年度から労災死亡事故の発生をはじめ、輸送障害も多発し目標をクリアする状況には至っておらず、まさに非常事態ともいえる状況に陥っているのが実情であります。

新型コロナウイルスの影響に伴う業績悪化を理由に、

私たちは、『安全とサービス』の低下につながり、利用者や交通弱者を無視した駅の無人化やローカル線廃止に反対しています。そして、皆さんが安心・安全に利用できるJRにしているために、今後においても全力を上げていきたい。」と訴えた。

## ロシアは戦争をやめろ

今こそ憲法9条を世界に掲げよう

## 憲法を語る集い

今憲法は空洞化され、さらに憲法9条に手をかけた改憲が進んでいる。

今こそ生活の中に憲法が生かされる社会にしよう。

とき 5月15日(日) 13時～  
ところ 岡山市勤労者福祉センター  
参加費 500円  
主催 憲法を生かす会岡山県連絡会